

モヤシ栽培の上原園

カット野菜、生産能力1.5倍

36億円投資し新工場 単身者向け好調

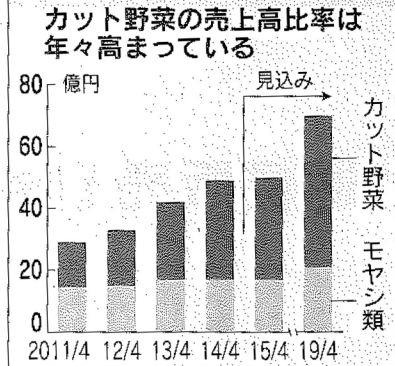
モヤシ栽培の上原園(栃木県栃木市、嶋田一男社長)はカット野菜の生産能力を1.5倍に引き上げる。栃木市内に36億円を投資して工場を新設、来年1月に本格稼働する。サラダ向けの生食用と、いため物向けの加熱用合わせて1日約14万パック製造できる体制を整える。単身や高齢者世帯の増加を受け、手軽に多品種の野菜をとれるカット野菜の需要増に対応する。

北関東自動車道の都賀インターチェンジ(IC)そばに敷地面積2万平方メートルの新工場「都賀インター工場」を立ち上げた。本社機能も市中心部にある栃木工場から移し、主力拠点と位置づける。2階建てで延べ床面積は約1万平方メートル。新工場では、加熱用のカット野菜の製造と、モ

ヤシの生産を担う。これまでカット野菜は栃木工場で生食用と加熱用をともに手掛けてきたが、需要の高まりに対して、生産能力が逼迫している状況だった。そこで、加熱用は新工場に、生食用は栃木工場に生産を分ける。

モヤシの生産はこれまで同市内の都賀工場が担ってきたが、老朽化のため新工場に全面移管する。モヤシの生産能力も1.5倍となる1日60万

に引き上げる。加熱用のカット野菜にはモヤシを入れるため、同一工場内



工場を新設しカット野菜の需要増に対応する(栃木県栃木市)

で作業が「より高い給できる」とみている。都賀工場を分けて栃市にしていた。

新工場では加熱用のカット野菜の製造を始めては試験栽培している。来年1月、都賀工場から新工場に移す計画。従業員は、まず栃木工場から管し、本格的に50人程度に定員を拡大する。同社の？期の売上高

菓子製(群馬県)中にも、「かいこ」を並べ、同県富岡町に「富岡製菓」を設立する。業遺産を継承する。界遺産登録が